

## 学生との連携

### 3. 大学生と商店街をつなぐ地域交流拠点「江別港」

community HUB 江別港（江別市）

#### ■ 地域の概要・現状

江別市大麻地区は、昭和30年代から住宅団地として開発され、住民の高齢化が進む地域。大麻銀座商店街には小売店やスーパー、福祉関連施設等があり、地域住民の買い物・交流の場となっている。市内の4つの大学には約1万人の学生が在籍しており、商店街では、大学生と連携した「商学連携」の取組等により商店街の活性化に取り組んできた。



[レトロな雰囲気を残す大麻銀座商店街]

#### ■ community HUB 江別港の立上げ

現在、大麻銀座商店街振興組合の専務理事を務める橋本氏は、以前勤務したNPO法人の仕事で大麻銀座商店街に関わったことがきっかけで、「活動の場」としての商店街や、「商店街の人」に魅力を感じ、平成25年に大学生と地域をつなぐ「community HUB 江別港」の活動を始めた。商店街の空き店舗を活用し、1階は飲食店「麺こいや」、2階はコミュニティスペースとして活用し、学生のゼミ活動や商店街でのイベントなどの活動拠点となっている。

建物は学生たちと一緒にセルフDIYで改装し、参加意識の醸成にもつながった。江別港を拠点とし、学生が商店街の夏まつりに出店するなど様々な活動をすることで、商店街の賑わい創出につながっている。

#### ■ ブックストリートで商店街が本のまちに

橋本氏と(一社)北海道ブックシェアリング代表の荒井氏がソーシャルビジネスを学ぶ場で出会っ

たのが縁で、本に関する取組が始まった。

江別港で本をテーマとしたイベント「ブックフェスティバル」を開催し、店内だけでなく、店先や向かいの店にもワゴンを置いて販売したところ、これまでにない人の流れが起き、それに手応えを感じて商店街全体へ取組を広げたイベントとして、平成27年から「ブックストリート」を開催している。

主催は商店街、企画運営は北海道ブックシェアリングと江別港が担い、毎月1回開催。100円古本市や絵本読み聞かせ、ビブリオバトル(書評合戦)等が行われ、大学生もスタッフとして運営に参加している。

ブックストリートでは、各店舗の店先にワゴンを並べることで、来場者が商店街全体を回遊する流れを作っている。商店街の飲食店等が軽食を販売する「フードコート」、野菜販売やチャレンジショップが出店する「ストリートマルシェ」も同時開催している。地元住民の来場が多いが、メディア等で取り上げられ知名度が上がり、市外からビブリオバトルに参加する方も出てきた。



[ブックストリートは冬期間も賑わう]

荒井氏は平成26年、商店街に十数年ぶりの書店「実験書店ブックバード」を出店し、同団体の事務所も商店街へ移転した。ほかにも取組をきっかけにカフェ、居酒屋、アトリエなど計7店が新たに出店した。

商店街の寝具店や江別港1階の飲食店では、ブックコーディネーターが選んだ書籍が常時展示販売されており、本は商店街のテーマとなっている。

## ■ 子ども食堂「ここなつ」

江別港では、平成 28 年から学生による子ども食堂が毎週開催されている。当初は、ゼミの一環として教員からの相談を受けて始まったが、現在は、学生たちが運営し、継続した活動になっている。

子ども食堂では、江別港の 1 階で食事をとり、2 階のコミュニティスペースで学習会を実施しており、近隣の小学生とその保護者が参加している。江別港では、会場の提供と食材調達や実施の際に学生の活動をサポートしている。学生の自主的な取組をサポートするには、距離感が大切であり、そこが難しいとのこと。

## ■ 「みなと計画」の取組

江別港での活動に取り組む中で、経済的な事情で活動だけでなく、学業そのものを断念せざるを得ない学生がいることを知った橋本氏は、若者が未来を諦めない社会を作るため、江別港をモデルに若者支援の場・人・資金をつくる「みなと計画」の活動を始め、平成 30 年に NPO 法人の設立を予定している。

橋本氏は、NPO や社会起業家と社会貢献に関心のある人をつなぐ「認定ファンドレイザー」の資格を持ち、江別港をモデルとするためクラウドファンディングで費用を募り、学生や地域住民とともに改装を行った。

今後も学生と地域、商店街をつなぐ活動を続けながら、「みなと計画」の活動を通じて若者の支援に力を入れ、江別の学生から力を借りるだけでなく、学生を支える街を体現したいと考えている。

江別港は、様々な人が出入りし、「あそこに行く」と面白い人がいる」と学生が集まり、気軽に過ごすことができ、また、卒業後も戻ってくることでできる「港」の役割を持たせ、将来的には学生が卒業後も江別で活動し、地域を担う人材となるための環境づくりを目指している。

## ■ 学生の活動を応援する商店街へ

大麻銀座商店街振興組合では、毎月理事会を開催し、組合員、若者、住民による商店街での活動

をバックアップする体制づくりに取り組んでおり、橋本氏は「この商店街は、外から来る者や若者からの提案や取組を受け入れる場になっている。」と話す。

今後も学生や地域住民の交流・活動の場として、支え合う環境づくりに取り組んでいく。



[子ども食堂での学習会の様子]

取材先 ■community HUB 江別港（江別市大麻東町 13 番地 48）  
TEL 011-398-9684  
HP [https //ja-jp.facebook.com/poebetsu/](https://ja-jp.facebook.com/poebetsu/)